

## 【レッスン① 車の魅力と危険】



プロフィール ● おおた てつや

レーシングドライバー、自動車評論家。1959年、群馬県生まれ。93年からル・マン24時間耐久レースにフェラーリで出場。レース中の事故により重傷を負ったが、リハビリ生活を乗り越えてサーキットに復帰。チャレンジする素晴らしさを伝える社会貢献活動「NPO法人KEEP ON RACING」の代表を務める。「太田哲也とオヤジレーサーズ」「太田哲也スポーツドライビングスクール」を率いて、モータースポーツ文化に貢献。著書に「クラッシュ」「リベース」(幻冬舎)など多数。

http://www.keep-on-racing.com



一般の人に運転技術や車の魅力を広めるために、レーシングドライバーを続けながら自動車評論の活動を行なう太田哲也さんが、運転上の見落としがちな盲点と、誰でもできる安全運転のコツを分かりやすく伝えていきます。

「太田哲也の小学校出張授業」を毎年行なっている。「チャレンジ、夢をかなえるにはどうしたらいいか」がテーマだが、そのあとで行なう小学生からの質問コーナーが楽しみだ。いろいろな質問が出されるのだが、その中で「車は怖くないですか?」というのが多い。

「もちろん怖いよ、あれだけの事故に遭って怖くないわけがない。でもその一方で車にはそれを超える魅力があるんだよ。事故の影響で今は自分の足だとそんなに長く歩いたりできないけれど、車があれば僕はどこへでも行ける。自由を得るわけだ。電車や飛行機ではこうはいかないね。どこへ行くにも多少は歩かなければならないし、そういう意味では、

僕にとって車は自由を与えてくれる。ゴムゴムの実。なんだ。僕の手足がぐんと伸びるんだ」

ここまで言う子どもたちが、

「ワンピース」

「ルフィーだ!」

と言う。

そもそもクルマは人間のDNAによって生まれたものである。動物は植物と違ってエサを取るためには移動することを宿命づけられている。もし、移動が嫌だと種族は減んでしまう。人間はいろいろなところに出かけたりするのが楽しいというDNAに基づき、食料を見つけ領土を広げ、繁栄してきた。クルマは人間のDNAを満足させて生活を豊かにしてくれたものなのだ。

だから僕は子どもたちにこう語る。

「君たちも車を手にしたら人生が楽しくなるよ」と。

とは言っても、事故に遭ってし

【自動車保険が改正されます】

損害保険各社は、2013年度から、交通事故を起こしたドライバーの自動車保険の保険料を、事故後3年間、現在よりも実質値上げする方針を決めました。高齢者の事故増加や若者の車離れで自動車保険の収支が悪化していることが背景にあり、現在より最大で5割程度上がる見込み。なお、事故の翌年から3年間無事故であれば、「事故なし」の保険料率に戻ります。詳しくは損保各社のホームページなどでご確認ください。



まったく車が嫌いになってしまいうだろう。だから大人になるまで、いや、なってからも交通事故に遭わないでほしい。

もちろん、大人の側への安全運転の意識づけも大切だが……。

事故に遭わないためには、自分が交通ルールを守っているだけでは無理だ。まず伝えているのは、

「青でも渡るな」  
なのである。

横断歩道で青信号でも車にひかれる事故は後を絶たない。歩行者から見たら車という精密な機械だけ

ど、車を運転しているのはあくまで人だ。人間は間違いを犯すもの。不

注意の人やいらいらした人や、徹夜明けで寝ぼけていたり。そんな人は

大勢いる。だから、クルマを、つまり運転者を信用せず、信号が青でも

すぐに渡らないで、自分の目で判断して安全を確認しようということな

んだ。

普段の生活において人を信用する

など言ったら人間不信になってしまいかもしれないが、車社会で身を守るためには、「自分の目で判断しろ」が正しい、と僕は思っている。

実はこれは、歩行者だけでなく、

すべての運転者にも言えることだ。相手を信用するな。そして自分を信用するな。常に最悪な状況を考えて

予測し運転する。今まで事故に遭わなかったのはたまたま運が良かった

だけ、これから必ず遭うぞ、ぐらいに思っていることだ。

レースも同じだ。勘に頼っているように見えるかもしれないが、実は

レースでも常に先を考えて予測をしている。

ここで何かあるかもと考え、最悪のことを考え、予想する。そうやって経験を積み上げていく。それが交通安全の基本精神だと思う。

次回からは、安全運転の具体的な方法について伝授していきたい。